SHINCLUB 82

(株)辰　東京都渋谷区渋谷3-8-10　JS渋谷ビル5F　　tel/03-3486-1570　　fax/03-3486-1450　　URL:http://www.esna.co.jp

品川　M2-HOUSE　全景　撮影：平井広行

今月のトーク/monthly talk

野帳場

品川区でM2－HOUSEが竣工したのは、昨年の暮れも押しせまった頃でした。このあたりは昔、川沿いの谷間でした。建物は当初「ベタ基礎」で計画されていましたが、弊社では一昨年この近所でマンションを施工した経験があり、その際基礎に杭を打っていたことを思い出しました。そこで念のため着工前にボーリング調査を行ってみると、地耐力が不足していることが判明したのです。実際に地耐力が足りないのですから、杭を打つか、地盤改良工事を行なわなければなりません。そこで、ベタ基礎を変えずに地盤改良を行うことになり、ソイルセメントコラム工法（テノックス）を採用しました。セメント系固化材と地盤の土を撹拌混合し、固化反応によって地中に改良体（コラム）を造る地盤改良工法です。撹拌装置をコラム芯にセットして、所定の深度まで掘り進め、固化材を撹拌します。結局、50本近くのコラムを打つ事となりました。

こうした設計変更と追加工事が発生したため、調査と工事に２ヶ月間の余分な工期を要することになってしまいました。当初の計画では11月末の引渡しを予定していたので、通常なら１月あるいは２月の完成となってしまうところですが、最終的には年内に完成させることができたのです。設計者の山嵜雅雄さんは現場担当者の頑張りを非常に評価してくださいました。

「通常、このような工事が発生すると、全体の工期が延び延びになってしまうところ、１ヶ月早く終えることができて、建て主さんも、仮住まいの家賃が浮いたと喜んでくださいましたね。」

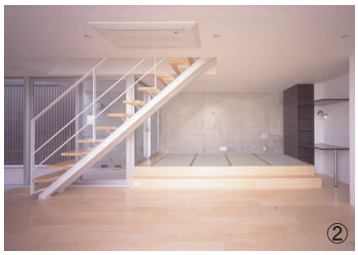
一方現場担当者は、設計事務所の先生やスタッフの方の協力があったからだと言います。

「もともと工期に余裕を持っていて下さったとは思いますが、代表の山嵜先生が毎回きちんと定例打合せに出て下さるし、現場担当の設計スタッフが事前に建て主さんと打ち合わせて決め事を処理しておいてくれたので、打合せの席で建て主さんが迷うことが少なく助かりました。また建て主さんも仕上げの減額変更にご理解いただき、追加工事分の費用の捻出に協力していただけたのでスムーズに工事を進めることができました。」

これらに加えて年末は、建物の竣工が数多く、仕上げなどの専門業者が不足して、手配が難しくなる時期です。「躯体工事を工程どおりに進められたので、事前に抑えておいた内装業者を予定通り入れることができました。」と担当者は振り返ります。

昔から工事現場のことを「野帳場（のちょうば）」と言います。建築は、ただでさえ試作のできない一発勝負ですが、雨風に影響され、そのうえ地面の中は掘ってみなければ判らない不確定要素で一杯です。今回のような不測の事態は、大なり小なりどこの現場でも起きているのが実情です。ですからこうした事態をいちいち嘆いてはいられません。これが現場の正念場と観念し、その都度納得のいくように工事を収めるのが知恵や経験だと思います。うまくいかないこともありますが、現場を預かる施工者が必要な情報を的確に出すことが、建て主さんや設計事務所と意思疎通を高め、信頼関係を維持しながら工事を進めていく前提なのかも知れないと感じました。

M2ーHOUSE



モダンなデザインに和の安らぎを持つ開放的な住宅

建て主はこの地域に長く住むご夫婦と娘さんである。以前と同様、建物を一部賃貸とする住まいに建てかえることになった。

この地域は防火強化地域に指定されており、建て替えについては準耐火以上という制限があったため、コンクリート造で計画はスタートした。都心の住宅密集地の限られたスペースで、借景の力を借りるには地域的にその力はない。また防犯上囲まれた空間の方が安心である。外からいただくのは、風と太陽だけとし、表の通り沿いには打ち放しのコンクリートと大きなガラスブロックの壁面を設けて閉じた形にした。裏側のバルコニーには木のルーバーを設け、内部に曖昧にひらけた空間を設けた。木のルーバーが、プライバシーを確保し、中が見えないようにしてある。

建物の構成は、1 階エントランス、2 階 LDK、3 階プライベートな個室で、これが一番使いやすい形であろう。あまり部屋を小割にするのは好きではなく、大きく分けた形を取り、300 角のガラスブロックを吹抜部分に使った。北側なので、夜明けから日没まで室内へ一定の光を確保できる。

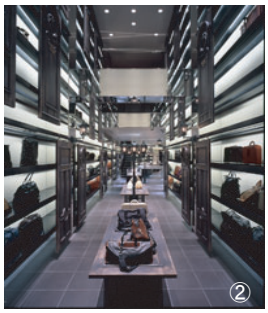
構造的には、外側が構造耐力壁の中にインテリアがあるという建物である。シュークリームのように、外側がしっかりしていて中にやわらかいクリームが入っているようなものである。断熱性能を考え、すべてコンクリート打ち放しとせず、断熱を施したペイント仕上調の白のビニールクロスが部分的に配されている。

家はその「たたずまい」に表れる。食べ物と同様、キレとコクのあるものがいい。キレであるデザインは設計者がつくるものであり、コクとなる「たたずまい」は住まい手である建て主が作り出すものである。着飾ることのない「たたずまい」が一番である。　（山嵜雅雄氏談）

構造：RC 造　地上 3 階
用途：専用住宅
設計：山嵜雅雄建築研究室
完成：2006 年 12 月
撮影：平井広行

①2 階 LDK。 300 ミリ角のガラスブロックの壁面が明るい室内を生み出す。②2 階 LDK にある和室コーナー。 畳の下は大容量の収納ボックス。 右側の仏壇の背板には、クラフトデザイナーによるビーズ織りが施されている。③キッチンコーナーから LDK を見渡す。 ディスポーザーを設置してゴミ処理の苦労を軽減。④北東全景。 通りから入った東側路地に面しているエントランス。⑤北側全景。 ガラスブロックの光が美しい。⑥バスルーム。⑦トイレ。 左側奥のバスルームへの脱衣場も兼ねており、 洗面の下の収納に家族の着替えなどを収めることができる。

サマンサキングズ　表参道本店



構造：鉄骨造　地上 2 階
用途：店舗
企画：クオリケーション
内装設計：森田泰通／グラマラス
内装施工：ジェーピーディー
完成：2006 年 11 月
撮影：ナカサアンドパートナーズ

①エントランス。 ライオンとカーテンのペイントアート。②1F店舗スペース。 吹き抜けの壁面にそびえるシェルフ。 木彫りが施された可動扉がディスプレイに変化を与えている。③2 階VIPルーム。

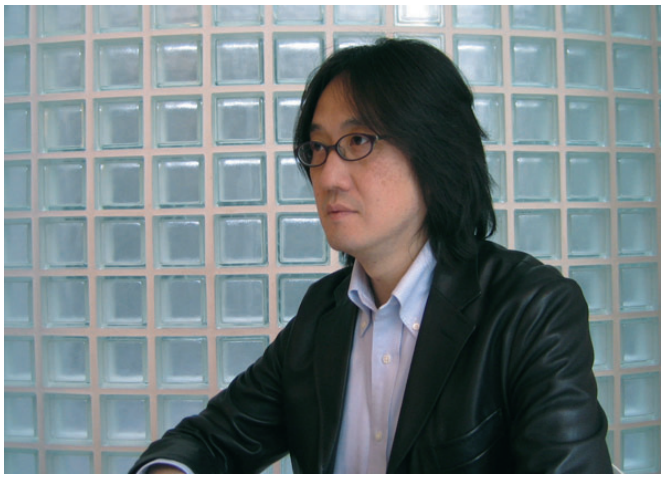
2006 年 11 月 24 日、若い女性に人気のブランドショップ「サマンサタバサ」の男性向けショップ『サマンサキングズ』が表参道にオープンしました。

内装設計は、今日本で最も注目を集めるインテリアデザイナー、森田泰通氏。吹抜の両側にそびえるダイナミックなシェルフがエスタブリッシュな雰囲気を盛り上げます。エントランスでは、ペイントアーティスト倉科昌高氏の描いたライオンやカーテンの絵がお客様を迎えます。

既存物件の解体工事を概算したことで辰に新築工事のご相談をいただき、7 月末に契約となりました。8 月末解体工事（別途工事）が終了しましたが、11 月末のオープンのためには、10 月末には躯体工事を終えていなければなりません。表参道ヒルズの完成により予想以上の人の混雑という工事環境の中、建て主であるクオリケーション様の担当者の方との協力で躯体工事はなんとか完了し、引き続き内装設計と工事担当の㈱ジェーピーディーさんの寝ずのがんばりで、契約工期を 1 週間短縮して無事終えることができました。

責任の取れる建築家

山嵜雅雄／山嵜雅雄建築研究室



山嵜　雅雄　profile

1960年　東京都生まれ
1993年　山嵜雅雄建築研究室設立　代表者

主な作品
「朱い壁」「Villa O」「AsHEITZ」など多数。

受賞
2000年　「第3回木材活用コンクール　住宅部門賞」
2001年　「第6回インテリアプランニング賞2000　建設大臣賞」
2002年　「第7回　都市住宅プロポーザルコンペ　入選」

今月は「M2-HOUSE」の設計者山嵜雅雄氏にお話を伺いました。渋谷区富ヶ谷にある、ご自身の設計したビル「AsHeitz」の地階に事務所が入っています。

—山嵜さんが建築家になろうとしたきっかけを教えてください。
山嵜：父は建築関係の会社を経営していましたが、高校の頃僕は、社会の、特に歴史の教師になりたいと考えていました。毎年教えることは同じだし、むしろ課外のクラブ活動の顧問になって、子供たちに夢を与えたり、そのときしか経験できないことを体験させることのできる教師という職業にとても魅力を感じていました。
　ところがある日、父親と話をする機会があり、「建築をやってみないか」という父の言葉。高校の修学旅行で京都、奈良の古建築を巡る調査、研究をし、古建築の、特に、「茶室」という空間の魅力を発見したことも建築に進む動機になりました。

—大学で建築を専攻された後は？
山嵜：最初ゼネコンに就職しました。1年間は現場で、２年目に設計部に配属され、そこで建築の「いろは」を学びました。その後、企画設計事務所に転職しました。
　そこは、弁護士、公認会計士、建築士、宅地建物取引主任、家屋診断士などが、建物づくりの時にネットワークを組んでプロジェクトを進めてゆく事務所でした。ここでは土地の有効利用を勉強させていただきました。そして今後の独立を考え、今後の事務所運営の勉強をするために、アトリエ系の建築設計事務所に転職しました。

—どちらの事務所ですか。
山嵜：坂茂さんの事務所ですね。29歳に入所、32歳で独立しました。現在は、主に個人住宅を中心に設計活動を行っています。他に企業の嘱託として相談を受けたり、コンサルタントを行っています。

—若いスタッフの方も大勢いらっしゃいますね。後に続く人をきちんと育てる、ということも心がけていらっしゃるようですね。

山嵜：最初は１人２人でやっていましたが、きっかけは若い世代の台頭です。
　「建築家が街に出る」という企画が数年前にあり、それをきっかけに、若い建築家が仕事を自由な発想で行う風潮が高まっていました。ちょっと上の世代の立場として、仕事をしながら伝えていくこともあるのではないかという気持ちが生じてきました。
　建築に対して自分と同じスタンスで向き合う人を増やしたい。「建築は責任感がなくてはならない」ということを理解させなくてはならないと感じたのですね。

—現在、所員は何人くらいですか？
山嵜：12 人ですね。僕の事務所は基本的に 5 年で卒業というルールがあります。5年間なら、卒業までに建築士の免許を取得したり、一般的な予算、建築もわかるだろう、建て主と話もできるようになるだろうと思っています。建築を続けていくために、基本を最低5年間勉強しなさい、ということです。
　でも、5年経ったらすぐに出てください、ということでもないですよ。独立するスタッフや、パートナーとなって事務所を手伝ってもらうスタッフ、といろいろです。パートナーは取締役として経営の勉強もしてもらいます。ただ仕事をこなすのでなく、自分で独立を目指してもらいたい。今、卒業生は5人いまして、そのうち2人がパートナーになっています。

—のれん分けというところですね。
山嵜：一番言いたいことは、「クライアントに迷惑をかけない建築家になってもらうこと」ですね。今、設計事務所の真価が問われています。責任を取れる建築家になってほしいということです。

—コーポラティブハウスなども手がけていらっしゃいましたね。
山嵜：いろいろと難しいこともありますが、複数の建て主さんに対して、公平であることが求められます。
　希望があれば対応したくなりますが、1 人の建て主への対応が全ての建て主への対応に変わってしまいかねない。人の領域を侵すようなことまですると問題が出てきますから、その辺も注意が必要ですね。

—建て主も決断することの積み重ねで大変だと思います。
山嵜：そういうストレスに耐えられるような自覚を持っていただくといいんですね。「事業主ですからね」と、時に確認するようなこともありますね。

　家というのは、本来住む人間が幸せになるハコです。建て主の方も家を建てることを最終目標にせず、自分たちが幸せになるための家づくりと考え、事業主である責任を持ち、自分で作ろうという姿勢を持っていただくことが大切です。

—本日はありがとうございました。

軽井沢の住宅

私の1週間 ⑮　辰の現場監督が毎回登場します。

今回の現場は表参道の地上二階鉄骨造のテナントビルである。工期は三ヶ月と非常に短い物件だ。既存建物の解体工事（別会社の工事）がもともと遅れてスタートしたので、厳しい工期となった。

十一月末の店舗オープンに間に合わせるために、十月中に躯体工事を終えなくてはならない。九月十五日に根切りを終え、十月三日には基礎コンを打った。十月十日夜間鉄骨を建てるためのレッカー車が入る。十月十七日から外壁ALCを取り付け、十月三十、三十一日には耐火被覆、屋上防水を施し、実質二十五日で躯体工事を終了した。内装に入ってからも工事管理は行った。

十一月十日（木）

内装工事が始まって十日目、夜中に工事の片付けをして、朝七時から八時の間にゴミ出しというペースである。原宿表参道は、日中人通りが絶えず、現場から歩道を横切り道路に抜ける作業は早朝と夜に限られている。

今日から、エントランスにアーティストの人が絵を描き始めた。倉科昌高さんという。約九メートルの高さの壁にライオンとカーテンを描くそうだ。単管パイプで足場を組んである。二階のVIPルームに置くライオンテーブルの絵も手がけているそうだ。

十一月二十日（月）

内部はまだ足場がかかっている。鏡が搬入開始された。二階VIPルームの鏡は巨大。扉の造作も凝っている。

若井　定昭

設計者に恵まれた自分
今後もいい建物を作りたい

内装工事は㈱ジェーピーディーにお願いしている。電気、設備、塗装のチームワークがいい。見ていて気持ちがいい。一階の吹き抜けの両側にそびえる棚の設置にずっとかかりっきりだ。間に合うのだろうか。夜中に外部足場を解体した。

十一月二十一日（火）

一階の床のタイルを貼る。電気器具を取り付ける。内装業者は十人くらい。役所検査。

十一月二十二日（水）

昨日と同じ。

十一月二十三日（木）

ほぼ工事終了。よく間に合ったなと思う。

十一月二十四日（金）

手直し作業。午後引渡し。商品が入り始める。

十一月二十五日（土）

夕方のレセプションパーティに向けて、サマンサタバサの社員の人たちは商品展示に余念がない。

ここまで工期がない現場は初めてだった。無事に終わってほっとした。

倒産した以前の会社では六年間働いていた。青森県の高校を出て、求人票を見て渋谷だと思って応募した。倒産のときにやめた人もいたが、自分は引き続き辰にいて良かったと思う。

これまで、設計者の方に恵まれてきたと思う。これからもいい建物を作っていきたいと思う。

1977年生まれ　青森県出身
弘前工業高校建築科卒業

趣味：音楽鑑賞

担当した主な物件　（設計者）
川崎倉庫（石崎友久）
目白台の家（松家克）
二軒家アパートメント　（木下道郎）
元麻布タウンハウス（山岡嘉彌）
松原の家（木下道郎）
練馬集合住宅（若松均）

TOPICS/INFORMATION

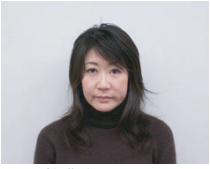
「組織改訂および新入社員のお知らせ」　1月9日

新年度にあたり、ZENグループの一員としてさらに飛躍すべく、組織を再構築いたしました。工事部を3建築部に分割、各部ごとの目標を設定、達成いたします。また特命工事主体に展開する開発営業部を設置し、周辺営業と内装工事を管轄します。

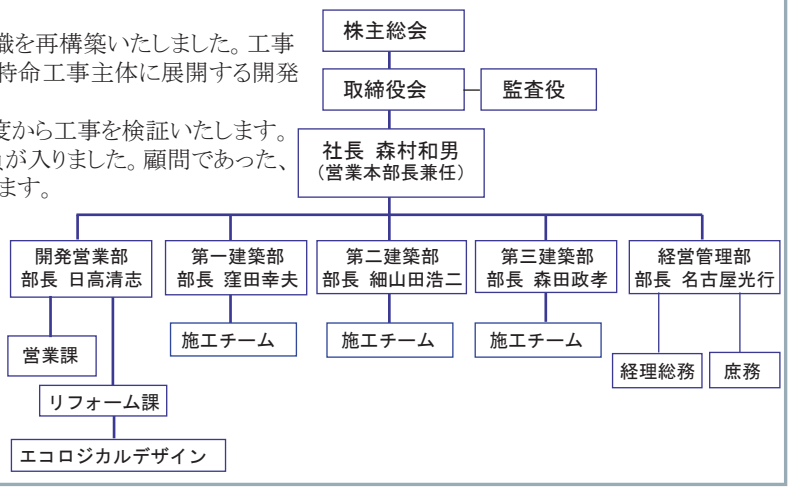
いずれの案件についても社長が営業本部長を兼任し、あらゆる角度から工事を検証いたします。また1月より建築部に1名、開発営業部リフォーム課に1名、新しく社員が入りました。顧問であった、森田政孝が第3建築部に復職いたしました。よろしくお願い申し上げます。

第三建築部 部長
森田政孝

第三建築部　主任
佐々木　信（まこと）



開発営業部リフォーム課
藤本美貴



編集後記

・新年明けましておめでとうございます。昨年末より発行が遅れておりますが、徐々に戻してまいります。今年もよろしくお願い申し上げます。

(株)辰　通信　Vol.82　発行日　2007年1月26日　編集人：松村典子　発行人：森村和男